

サーサナ

第67号 仏暦2567（西暦2024）年3月10日

勿体ない

勿体なや祖師は紙衣の九十年

（大谷光演）

昨年12月30日、国連のグテーレス事務総長はビデオメッセージを公開し、地球温暖化の進行について「気候の崩壊が起きている」と強い危機感を示したうえで「破滅への道から抜け出さなければならない」と述べ、各国に対して温室効果ガスの排出削減などに一致して取り組むよう呼びかけました。

気候崩壊の要因は様々で複雑ですが、私たち一人一人ができることがあります。それは、「もったいない」の気持ちを持って、いたずらに消費しないことです。

現代社会は「消費社会」といわれて、たくさんのモノが売買されています。「経済成長」は、世界中で各国社会の目標となり、GDPを拡大することをひたすらに目指してきました。そのためになりふりかまわぬ政策がとられてきました。大手広告会社の電通には「戦略十訓」なるものがあるそうです。どうすれば売れるか、を示したものです。それは、「1.もっと使わせろ、2.捨てさせろ、3.無駄遣いさせろ、4.季節を忘れさせろ、5.贈り物をさせろ、6.セットで買わせろ、7.きっかけを投じろ、8.流行遅れにさせろ、9.気安く買わせろ、10.混乱をつくり出せ」、なのだそうです。私たちはそれに乗せられて、モノを捨てて、無駄に新しい買い物をしてきたのです。自動車も、家電製品も、スマホも、家具も、本来ならもっと使えるはずのモノが「流行遅れ」にさせられて、新しいモノを次々に買わせられてきました。「計画的陳腐化」といって、製品寿命を意図的に短くすることで、次々に新製品を買わずに得ないようにする、というビジネスモデルがかつて存在していました。今でも、多くの製品は修理するより買い換えるほうが安い、というのが実態です。

ケニアの民主化運動のリーダーで環境保護活動家のワンガリ・マータイさんが2005年に来日して、日本語の「もったいない」に感銘を受けて、これを世界共通語としようとして「MOTTAINAI」キャンペーンを展開したことはよく知られています。英語へ「もったいない」を訳そうとしても、なかなかうまくいきません。たしかに、wasteful という語はありますが、これは単に「無駄遣い」を意味するに過ぎず、感謝してモノを大切に使う、という精神性を表すにはいたっていないのです。マータイさんは、MOTTAINAI とは[3R+Respect]だと言います。3Rとは、Reduce(消費削減)、Reuse(再利用)、Recycle(再資源化)であり、Respect は「尊敬する」という意味です。

そこで冒頭の句について。大谷光演師(1875-1943)は東本願寺第23世宗主で、句仏上人とも称される俳人でした。「祖師」とは親鸞聖人、「紙衣」とは和紙で作られた衣(防寒着)です。親鸞聖人の90年にわたる生涯は、流罪や遍歴といった苦難に満ち、紙衣をまとったような質素な生活であった、そのことが何とありがたいことか、おそれおおいことだ、というのが句の意味です。

ただし、何でも儉約することがよい、ということではありません。親鸞聖人の衣服は質素なものでしたが、主著『教行信証』を執筆するのに用いた和紙は当時としては最高級品で、貴族が使用するようなものだったそうです。そのため、その真筆本は現在に至るまで劣化を免れてきました。安物の紙だったらとっくの昔に風化してしまったことでしょう。ですから、単なる儉約というのではなく、私たちの生活スタイル、および消費社会のありかたを根本的に見直す必要に迫られていることと思います。

ユニセフ募金

2月19日、皆様からお預かりした浄財20,406円を公益財団法人・日本ユニセフ協会へ振り込みました。累計では348,909円になりました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

会費の納入について

会費の期限切れの方は、更新をお願いします。皆様の納入年度は封筒宛名シール下部に記されています。1年で1000円ですが、事務軽減のため、複数年を納入していただくとたすかります。

郵便振替00880-4-68473「教心寺」、または現金手渡しで。

法要行事について

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。念珠は必ずご持参ください。また肩衣の着用を推奨します。



三月 涅槃会（ねはんえ）

兼 年間物故者追弔会

兼 春彼岸会

涅槃会とは、釈尊の入滅（入涅槃＝完全なる安らぎである死を迎えられたこと）を記念する法要です。本法要にあわせて、2023年の間に亡くなられた当寺御門徒を追弔いたします。また兼ねて春彼岸法要ともなります。

- ❖ 日時 3月21日（金）午後2時～4時【午後1時半より受付】
- ❖ 内容 年間物故者追弔のことば
勤行（和文仏教聖典読誦、正信偈同朋奉讃）
住職法話
- ❖ 持ち物 『和文仏教聖典』、『正信偈同朋奉讃』（または『真宗大谷派勤行集』）

四月 花祭りコンサート

恒例の花祭りコンサートは今年で11回目を迎えました。

昨年同様、久野薫さんと小島千加子さんをお迎えし、デュオコンサートを楽しみながら、釈尊生誕をお祝いしたいと思います。甘茶の用意もありますので、ご自由にお召し上がりください。

お友達などにもお誘いしていただきたく、チラシを同封しました。

- ❖ 日時 4月6日（日）午後2時～3時（午後1時45分開場）
- ❖ 入場料 2000円（中学生以下無料）
- ❖ 歌手 久野薫（ソプラノ）
- ❖ 演奏 小島千加子（ピアノ）
- ❖ 曲目 シューベルト／セレナーデ R.シュトラウス／セレナーデ
朧月夜 からたちの花 シューベルト／3つのピアノ曲D946より
など
- ❖ 予約 なるべく予約をおすすめします。
定員40人を超えた場合、お断りすることがあります。

五月 永代経

子々孫々、永代にわたって、浄土三部経が読誦され、仏法が伝えられることを願いとする法要。御懇志を頂いたお方の法名を記した掛け軸をお掛けします。（「永代経」という名前のお経があるわけではありません。）

なお、永代経のご懇志については随時お受けしています。

- ❖日時 5月25日（日）
午前法座は午前10時から
午後法座は午後1時から（午後2時半頃まで）
- ❖内容 勤行（無量寿経・阿弥陀経訓読、正信偈）、法話（石原和久師）
- ❖持ち物 勤行本『正信偈同朋奉讃』『真宗法要聖典』
- ❖お齋（昼食）があります（持ち帰り可）

教心寺ライブラリーから（11）

植木雅敏『仏教 本当の教え』

（中公文庫、2011年）

副題として「インド、中国、日本の理解と誤解」。仏教がインドから中国、日本に伝わる過程でどう変容していったかを論じて、日中印の文化論に及ぶ。

このたぐいのテーマについて書かれたものは多いが、仏教がもともとの思想から変化していった様を否定的にみるのか、肯定的にみるのか、著者自身の思想的立場によって趣旨が異なってくる。植木氏は法華経を重視するが、単に護教的立場にとどまることなく、訳経（サンスクリット語から漢語へ）の問題から論じていて、誤訳をきっちり指摘し、そこに教えの変化を見て取り、日本の諸宗派の解釈とは異なる本来の法華経の教えについて解説をする。その一例だが、仏教は本来的にジェンダー平等に立つ教えであるという指摘、これは十分味読に値する。翻訳の際に意味が変容していくのは法華経だけではなく、浄土経典など諸々の大乘経典も同様である。

本書は新書という制約上、学術的な記述は控えめである一方、やや冗長に過ぎる部分、陳腐に過ぎる部分が散見され、もう少し主題に絞り込んでいただきたかった。

真宗大谷派 教心寺（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弍（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：052-801-1381 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <https://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>

